

## 平成28年度第1回浅口市総合教育会議議事録

1. 招集日時 平成28年6月24日(金)
2. 場 所 中央公民館第1会議室
3. 開 会 午後3時30分
4. 閉 会 午後4時25分
5. 出席者 市長 栗山康彦 教育長 中野留美  
教育委員 山田篤 教育委員 原田玲子  
教育委員 中務美保子 教育委員 藤澤弘幸
6. 説明のために出席した者の氏名  
教育次長 榎田忠 教育総務課長 石田康雄  
学校教育課長 今井豊 こども未来課長 川手泉  
文化振興課長 小山朋子 生涯学習課長 清水真  
こども未来課 岡堂典以史 教育総務課 高橋佑輔(事務局)
7. 議事の概要  
教育次長 平成28年第1回浅口市総合教育会議の開会を宣する。  
次第2 市長挨拶について  
市 長 私の教育にかける思いを少しお話をさせていただきたい。  
市長になって、教育で最初に取り組んだことが、学力向上NO.1プロジェクトである。  
この学力というのは、「知・徳・体」このバランスがとれたもので勉強していくものであり、教育予算を投資してきた結果、その成果が徐々に現れているところだ。  
最近、特に痛切に感じるのが、この「知・徳・体」の「徳」である。この「徳」の部分は、幼少期から培っていかなければならないことは、皆さんの方がよくご存知だと思う。  
本日は忌憚のないご意見をお聞かせいただき、大いに議論を交わさせていただきたいと思う。  
教育次長 次第3 議題について  
浅口市総合教育会議運営要綱第3条の規定により、市長に議事進行を求める。  
市 長 浅口市総合教育会議運営要綱に基づき、議事進行を行う。  
協議題 幼児教育について  
まず、市の教育・保育施設の今後の予定について、事務局に説明を求める。  
教育次長 今、教育委員会の大きな課題として、教育・保育施設の整備に係るものがある。

教育・保育施設については、外部からの委員を交えて、浅口市子ども子育て支援事業計画を1年間かけて作成した。

この中で、保育園と幼稚園を合わせた施設であるこども園について、寄島幼稚園は平成28年度、六条院幼稚園は平成29年度、金光幼稚園・鴨方東幼稚園・鴨方西幼稚園は平成30年度から開設し、待機児童等の解消に対応する事業計画となっている。

そのため、六条院幼稚園では今年度から3才児保育を始め、計画どおりこども園に向けて動いているところである。

しかし、この計画策定後、八幡福祉会から鴨方地区にこども園を開設したいと申出があり、浅口市内のこども園に係る需要と供給のバランスが、計画策定時より変わってきたことである。

その需要と供給のバランスを見極めて、計画どおり進めるか、または平成30年度予定の3園を見合わせるかという作業が考えられる。これは予算も関係し、大きな課題であるため、ご意見をぜひ聞かせていただきたい。

市長 六条院幼稚園がこども園へ移行するには、全体でどれくらい費用が掛かるのか。また、国・県の補助金はどうか。

教育次長 施設整備については、昨年度の耐震改修等工事が57,000千円、今年度予算計上額は35,000千円になる。また、こども園の施設整備としては、公立の場合、国・県の補助はない。

市長 では、八幡福祉会へは今年度どのくらい補助金が掛かる予定か。

こども未来課長 補助対象経費320,520千円のうち、県・市の補助金が154,016千円になる。

教育次長 予算的なこともあり、計画に掲げていた3園(金光幼稚園、鴨方東幼稚園、鴨方西幼稚園)については少し様子を見たいため、準備を控えている旨をご留意いただきたい。

藤澤委員 先ほど六条院幼稚園の施設整備にかかる今年度予算が35,000千円であったが、平成30年度に実施予定の3園(金光幼稚園、鴨方東幼稚園、鴨方西幼稚園)についても各々35,000千円程度掛かるのか。

教育次長 お見込みのとおり。

六条院幼稚園については、昨年度耐震改修工事に併せてトイレ改修工事も行った。

3才児を受け入れるとなると、トイレの便器、手洗い場の位

置などトイレ改修の必要性が出てくる。

藤澤委員 八幡福祉会のこども園は、ゼロから造るので約 320,000 千円。約 150,000 千円の補助金が出て、建設するということ。

教育次長 はい。

この金額については大きい、一時的なものではある。実際に運営していくと、人件費、管理費など経常的な経費がかなり掛かってくる。一時的に大きな支出になるが、長期的な目で見ると、民間の活力の方が市の財政的にも良いと思う。また、選択する側も、こども園・幼稚園・保育園がそれぞれあれば、選択肢が非常に広がる。

市長 私の基本的な考えは、もし民間の方で受けてくれるのであれば、全部任せようという思いがある。ただし、それでも受けることができない場合の受け皿として、官の方で責任を思ってお預かりすると。近年では共働きをする家庭も多いため、できるだけ共働きをしやすい環境を作りたいと思っている。

中務委員 諸般の事情があり、当面計画を見合わせるのはいかがでしょうかという提案だと思うが、こども園へ移行しなくても、金光幼稚園・鴨方東幼稚園・鴨方西幼稚園の 3 園での 3 才児保育を見合わせる可能性があるのか。

教育次長 先ほど説明したが、現実的に 3 才児を受け入れる場合、施設を整備する必要がある。

また、実際に平成 30 年度から受け入れを開始しようとする、来年度には施設を整備しなければいけない。ということは、今年度に設計をしないと間に合わない。また、今年度、八幡福祉会のこども園への補助金として大きな投資を行う。

また、もう一点、金光学園幼稚園がこども園へ移行したが、この計画作成時のアンケート調査では、当該こども園は満杯になり、不足するのではと懸念されていたが、0～2 才児保育に関してはまだ余裕がある。

新たな民間のこども園ができ、その需要と供給のバランスを見極めなければ、公設のものができたが、定員が割れたままの状態になるという心配がある。

原田委員 金光幼稚園の近くには敬親保育園・三和保育園、鴨方東幼稚園の近くには敬親かもがた保育園があるが、鴨方西幼稚園の近くには保育園がない。

施設の整備に費用が掛かると思うが、幼稚園には預かり保育もあるので、この 3 園についても 3 才児の受け入れを試みて

はどうかと思う。

八幡福祉会のこども園ができれば、そちらへ預ける人もあろうし、早急にこども園に移行する必要はないのでは。

教育次長 こども園も、金光地区には金光学園こども園、寄島地区には寄島こども園があり、鴨方地区には六条院幼稚園がこども園へ移行予定、旧鴨方だと八幡福祉会のこども園が建設予定。したがって、旧町単位ではこども園がひと通り整備されたと思う。最近では送迎を自家用車で行うので、鴨方西幼稚園の学区であっても、八幡福祉会のこども園へ行くとしても時間が大幅に掛かるということもないのではと。

市長 六条院幼稚園でも、恐らく一番遠い所から来ると4 km以上ある。例えば、小坂の方が八幡福祉会のこども園へ行くとしても、そちらのほうが近いのではないかと思う。

さらに、教育次長が述べたように、送迎は自家用車で行っているし、移動距離も何十分も余計に走ることはないと思う。

教育長 六条院のこども園へどれくらい預けてくれるのかというのは、今秋にはわかってくる。これと、八幡福祉会のこども園へどれくらいの人数の応募があるかで、次の計画を検討する必要がある。また、3才の教育を充実させることを念頭に置き、今後の状況を見ながら、3つの幼稚園（金光、鴨方東、鴨方西）をいつから、どうするのかという見極めをするようになると思う。

八幡福祉会が運営するこども園の定員は、どのようになっているのか皆さんへご教示いただきたい。

こども未来課長 教育のみを希望する満3才児以上（1号認定）が10人、教育及び保育を希望する満3才児以上（2号認定）が45人、満3才児未満（3号認定）が35人、合計90人の利用定員となっている。

原田委員 今年度、六条院幼稚園では3才児クラスを設置したが、何人来ているのか。

こども未来課長 今年度は27人。

原田委員 結構多いと思う。他の幼稚園でも3才児保育を始めれば、応募があるのではないか。

中務委員 この対象地域は、どこからになるのか。

教育次長 3才児保育を行っている幼稚園は六条院幼稚園のみなので、これに関しては、特に対象地域を設けていない。

中務委員 実際は、どこから来られている方が多いのか伺いたい。

- 教育長 六条院から来られる方がほとんどであった。
- 藤澤委員 今回、第3子の保育料が無料化になったことで、2号認定が増加したなどの統計はあるのか？
- 教育次長 わずかな数なので、それにより増加したかどうかは不明だが、ただ誘発するのは確かだと思う。  
また、自宅で子育てしようと思う方も、無料化になると預けようとするのが考えられる。
- 藤澤委員 月3,000～5,000円という金額でなく、月50,000～60,000円という金額が無料になると、かなり比率も大きいのではないかと思う。
- 市長 当市では、預かり保育も含めて、第3子の保育料無料化を行っている。全部が無料となれば一番良いが、まずは第3子からということで決断している。
- 原田委員 3才児の教育を充実させ、色々なことを考えてほしい。
- 市長 教育長とよく話をするが、知・徳・体の「知」や「体」の部分は、目に見えてわかることがあるが、「徳」が目に見えてわかるものではないため、何かないかと常に聞いている。  
もし、これぞという先進事例があれば、それを取り入れていただければと思う。
- 教育長 大学との連携の中でそのような話をしており、学校・園だけでなく家庭と地域も一緒になり、全体で「徳」に取り組むことが大事だと思う。
- 教育次長 皆様のご意見をお聞きし、需要と供給のバランスを見極めて、次の政策を検討するというコンセンサスで動かさせていただくことでよろしいか。
- 中務委員 これからの教育には、3才児の教育ははずせないと思う。  
また、こども園にするかどうかは別だと思うので、預かり保育で対応できる部分は大いにある。
- 教育次長 保育園においても、3才児を単に預かる保育ではなく、教育も行っていくという対応は可能だと思う。
- 市長 個人的には、六条院幼稚園だけとか、なんとかだけというのは、できるだけ避けたい。一律に平等であってほしい。
- 山田委員 幼稚園については、今のような結論で賛成だが、先ほどの内容と論点がずれるかもしれないが、2点お話したい。  
まず1つ目は、知・徳・体の件で、「知」については、学校・家庭・地域の3者があり、その中の主として学校と家庭が大きな要素になる。それから「体」に関しては、学校と家庭も

あるが、地域社会が大きく連携している。

それに対して、「徳」は、学校・家庭・地域これら3者が一体とならないと成し遂げられるものではないと思うので、この辺りを浅口市の皆さんにもご協力いただかないとできないのではと思う。

それから、先ほど共働きができる環境づくりを言われたが、全国においてもそうした形にしようということで、大事だとは思っている。

ただし、その反面、保護者の中には、3才くらいまでは自分の納得がいくような子育てをしたいと思っている方もいると思う。共働きの世帯に対する支援も大事だが、家庭で子どもを育てたいという保護者に対しても何らかの支援も少し検討していただきたい。

教育次長 今、鴨方公民館で「つどいの広場」を実施している。お母さん方が乳幼児を連れてきて、親同士の交流を図ったり、保育士が待機しているので、育児の相談をしたりなど。

そこをもう少しPRしたほうが良いと思った。

市長 自宅で子育てしている方のストレスが解消できるよう、ふれあいの場を新しく造ろうとしたが、諸事情により現在保留になっている。そこで、既存施設の利用をすればということになったが、場所はどこが良いか、耐震性はあるか、十分な空間があるかという問題もある。

当面は、既存施設の利用を念頭に、もう少しお待ちいただきたい。

続いて、子育てコンシェルジュの設置について、事務局より説明を求める。

こども未来課 本年度からこども未来課に子育てコンシェルジュが設置された。

その役割として、1つは「相談業務」。具体的には、幼稚園、こども園、保育園の先生への支援・指導に関するもの、就学前の子どもの進路に関するものなどになる。

もう一つは「つなぐ」ということ。小1プロブレムが全国的にも問題となっており、市内小学校でも課題となっている。

色々な理由があるが、園から小学校へのつながりが不十分であることが考えられるため、関係教育機関でプロジェクトチームを編成し、本年度2学期までに「園小接続カリキュラム」を作成する。それにより、園と小学校を円滑に「つなぐ」

ことで、子どもが安心して小学校生活に入れることを狙っている。

また、啓発という点では、市の HP に毎週子育てコメントを掲載している。

教 育 長 このコンシェルジュの設置は、教育委員からの提案であった。

中務委員 本当に、これから成果が上がってくるだろう。

また、幼稚園や保育園の先生方、保護者にとっても心強いと思う。

市 長 次第4 その他について

何か事務局からあるか。

教育次長 特になし。

市 長 全般を通して何か質疑はあるか。

構 成 員 特になし。

市 長 平成28年度第1回浅口市総合教育会議の閉会を宣する。